

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業振興センター

「稲作情報（第12号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第12号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R6 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R6 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R6 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R6 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R6 (hr)	平年比 (%)
7月	1	25.4	27.6	2.2	29.2	30.6	1.4	22.4	25.1	2.7	90.3	147.5	163.3	16.3	21.4	131.3
	2	26.1	29.3	3.2	30.1	32.4	2.3	23.0	26.9	3.9	83.2	2.5	3.0	20.3	33.5	165.0
	3	26.7	24.9	-1.8	30.9	27.5	-3.4	23.5	22.8	-0.7	61.9	195.5	315.8	24.2	4.8	19.8
	4	27.3	28.5	1.2	31.8	32.8	1.0	23.9	25.3	1.4	43.1	4.0	9.3	28.0	30.8	110.0
	5	27.7			32.5			24.2			36.2			31.4		
	6	28.1			33.0			24.5			39.2			41.0		

○7月4半旬の平均気温は、平年に比べて1.2°Cほど高く推移した。また、降水量は少なく平年比9%、日照時間は平年比110%となった。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：7月25日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概 要
さがびより 6/20 移植 武雄市橋町 ※2	本年値	66.3	453.1	10.5	41.7	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年より高く 茎数は平年より多い。 主稈出葉数は平年より0.1葉多い。 葉色は濃く、SPADは平年より0.3高い
	前年値	54.7	414.1	10.4	40.2	
	平年値 ※2	56.1	423.3	10.4	41.4	
	平年比	118	107	+0.1	+0.3	

※1 さがびよりの平年値はH21～R5の平均値

※2 本年移植日6月20日 平年移植日6月22日

3. 管内の生育状況（7月25日時点）

- 七タコシヒカリ：現在、成熟期である。出穂盛期は6月26日～28日となり、積算温度による刈取り予想は7月27日～8月2日頃となる。
- 普通期水稻：分けつ盛期～幼穂形成始期である。日照時間が長く推移したが、平年と比較し草丈は徒長している。また、深水管理された圃場では茎数が少なくなっている。

4. 今後の管理

1) 七タコシヒカリ

(1) 水管理

- 「コシヒカリ」は、成熟期を迎えている。なお、積算温度による刈取り積算目安表は別紙参照。

2) 普通期水稻

《共通》

- ・移植後、気温は高く推移したことで雑草発生が早く、場合によっては除草剤の効果が十分発揮できていない圃場も確認されている。特に「ホタルイ」の発生がみられる。その場合、中後期除草剤の散布も視野に入れる（剤によっては収穫前日数に留意して使用する）
- ・移植後の曇天多雨の影響を受けて、初期分けつが確保できず茎数不足の圃場も見られるが、中干し作業は、移植後35日～40日まで実施する（茎数が少なすぎる場合は軽めに行う）。なお、『中干し作業の効果と時期』については、稲作情報10、11号参照
- ・いもち病が多発している圃場では、強い中干しは避けるようにする。

① 夢しずく

- ・間もなく幼穂形成始期を迎える。
- ・幼穂形成期から出穂期にかけては要水量が増加する時期である。特に穂孕み期から穂揃期は湛水（浅水）管理とする。

② ヒノヒカリ

- 6月下旬に移植されたヒノヒカリは、8月上旬頃には幼穂形成始期を迎え穂肥施用時期となる。
下記の診断基準により穂肥診断を必ず行い、適期適量の施用につなげる。

【表1 ヒノヒカリの穂肥診断基準】

草丈 cm 幼穂形成始期時	葉 色		穂肥施用時期			
	群 落	SPAD	出穂前	幼穂長	穂肥施用量 (N成分)	
80 cm 以下	淡い	3.0 以下	34 以下	20～22 日	1～2mm	3.0kg/10a
	標準	3.0～3.5	34～38	18～20 日	3～5mm	3.0kg/10a
	濃い	3.5～3.8	38～39	16 日	5～15mm	2.5kg/10a
	濃い	3.8 以上	40 以上	15 日	15～30mm	1.0kg/10a
80 cm 以上	淡い	3.0 以下	34 以下	20～22 日	1～2mm	2.5kg/10a
	標準	3.0～3.5	34～38	18～20 日	3～5mm	2.5kg/10a
	濃い	3.5 以上	38 以上	穂肥は施用しない		

③ さがびより

- 穂肥の施用時期は、幼穂長10mmが基準となる。
幼穂長5mm以上になったことを確認してから、下表の診断基準により穂肥を施用する。

【表2 さがびよりの穂肥診断基準】

	幼穂形成始期の 草丈cm	葉 色		幼穂長	出穂前 日数	施用量 N成分kg/10a
		群 落	SPAD			
穂肥診断時	75 cm 以下 (標準)	2.5 以下	33 以下	5ミ	20～18日	2.5kg
		3.0	33-37	10ミ	18日	2.0kg
		3.5	37-38	15ミ	16日	1.0kg
		3.8 以上	39 以上	施用しない		
	75 cm～ 80 cm	3.0 以下	36 以下	10ミ～15ミ	18～16日	1.5kg
		3.0 以上	37 以上	施用しない		
80 cm 以上	施用しない					

3) 病害虫の発生状況

①いもち病

【普通期水稻】

- ・ 圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」や「ごま葉枯病」の温床になるため、すみやかに除去する。
- ・ 葉いもちの発生に注意して観察し、進展型病斑が認められれば早急に臨機防除を実施する。その場合、オリブライト粒剤等を使用する（ただし農薬摘要に留意する）
- ・ 窒素過多は発生を助長するので、適切な肥培管理を行なう。
- ・ **葉いもちの発生がみられる圃場では、穂ばらみ期の防除を徹底するとともに、発生が多いと予想される場合（上位3葉に葉いもち病の病斑を確認した時）には穂揃い期にも防除を行う。**
薬剤の使用にあたっては、使用時期や回数等の農薬の登録情報に注意する。






葉いもち病の病斑
葉色が濃い圃場にて確認



図1 トビロウカ各世代の発生予測 (第2版、2024年7月19日作成)



ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウカ	白っぽい	灰白の斑紋	 : 真横
トビロウカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	 : 真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	 : 斜め後ろ

令和6年産「七タコシヒカリ」収穫適期予想表（アメダス観測地、白石）

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会作物部会
杵島農業改良振興センター

令和6年7月25日現在

月	日	平均気温		出穂期				
		平年	R6	6/24	6/26	6/28	6/30	7/2
6	24	24.0	24.1	出穂期				
	25	24.2	23.4	23				
	26	24.3	22.1	46	出穂期			
	27	24.4	22.5	68	23			
	28	24.6	24.3	92	47	出穂期		
	29	24.8	24.8	117	72	25		
7	30	24.9	28.2	145	100	53	出穂期	
	1	25.1	25.6	171	125	79	26	
	2	25.2	27.4	198	153	106	53	出穂期
	3	25.4	28.9	227	182	135	82	29
	4	25.5	28.1	255	210	163	110	57
	5	25.7	28.1	283	238	191	138	85
	6	25.8	29.4	313	267	221	168	115
	7	25.9	29.5	342	297	250	197	144
	8	26.1	29.6	372	326	280	227	174
	9	26.2	29.6	402	356	309	256	203
	10	26.3	28.4	430	384	338	285	232
	11	26.5	24.9	455	409	363	310	257
	12	26.6	25.5	480	435	388	335	282
	13	26.7	25.6	506	460	414	361	308
	14	26.8	24.0	530	484	438	385	332
15	26.9	24.5	554	509	462	409	356	
8	16	27.1	25.9	580	535	488	435	382
	17	27.2	27.6	608	562	516	463	410
	18	27.3	28.5	636	591	544	491	438
	19	27.4	29.8	666	621	574	521	468
	20	27.5	30.7	697	651	605	552	499
	21	27.6	29.3	726	681	634	581	528
	22	27.7	29.7	756	710	664	611	558
	23	27.7	29.6	786	740	693	640	587
	24	27.8	29.7	815	770	723	670	617
	25	27.9		843	798	751	698	645
	26	27.9		871	826	779	726	673
	27	28.0		899	854	807	754	701
	28	28.1		927	882	835	782	729
	29	28.1		955	910	863	810	757
	30	28.1		983	938	891	838	785
	31	28.2		1012	966	919	866	813
8	1	28.2		1040	994	947	894	841
	2	28.2		1068	1022	976	923	870
	3	28.3		1096	1051	1004	951	898
	4	28.3		1125	1079	1032	979	926
	5	28.3				1061	1008	955
	6	28.3				1089	1036	983
	7	28.3					1064	1011
	8	28.2						1039
	9	28.2						
	10	28.2						

4月6日移植→出穂期6月28日頃

◎コシヒカリ収穫適期の目安

●積算気温による目安

最低 850℃

~

最高 930℃

<収穫のポイント>

○ 積算表はあくまで目安です。

○ 収穫は、圃場での熟れ具合を確認したうえで、作業日を決定してください。

○ 早期落水すると充実不足による「ヤセ米」や「屑米」、「死米」が発生し、品質低下を招くため、収穫1週間前までは必ず間断灌水を実施し、根の活力維持に努めてください。

○ 麦などの異種穀粒や異物が混入しないよう、収穫作業前には、必ずコンバインや乾燥機の清掃点検を実施してください。

○ 「七タコシヒカリ」の収穫は、高温条件での作業となり、ヤケ米発生が懸念されるため、一次堆積時間(トラックやコンテナでの堆積時間)はなるべく長くならないように作業を進め、収穫された籾は速やかに通風・乾燥してください。



<収穫適期の目安>

・籾水分27~28% (穂軸の先端(穂先)から1~2cmが枯れ、穂元の青籾が5~7粒残っている状態で、籾をツメで押してもつぶれなくなった時。籾水分が25%未満(積算気温で1,000度以上)になると刈遅れによる品質低下が懸念されます)

・収穫時期の気温が高い「七タコシヒカリ」では、普通期水稻よりも籾水分の低下が早く、刈遅れによる品質低下が懸念されるため、収穫前は圃場での籾の籾水分の推移を注視しながら、収穫適期を判断してください。

・早刈りすると「青未熟粒」や「死米」の発生による品質低下だけでなく収量も低下し、また、遅刈りすると「胴割米」や「茶米」等の発生による品質低下を招きます。高い品質と収量を確保するため、適期収穫に努めてください。

4. 大豆の管理について

○7月上旬ごろの晴れ間に播種された圃場では、本葉2～3葉期を迎えている。多くの圃場では播種作業は7月19以降となっており、出芽期を迎えている。

(1) 播種

- 収量・品質を確保するには、播種時期にあった苗立ちを確保することが最も重要となる。梅雨明けたので、乾燥しすぎないうちに播種を行う。

(1) 梅雨明け後の播種対策

- ①トラクタで耕起できる程度に圃場が乾いたら、耕起の上、直ち（土壤水分が保持されているうちに）に播種する（可能であれば午後から耕起し、夕方播種するようにする。梅雨明け後、晴天が続くようだと土壤が過乾燥となり、発芽率が低下する。）。極端な浅播きは避ける。
- ②梅雨明け後速やかに出芽しない場合は、種子の活力低下と高温障害により、土壤中で種子が腐敗しやすく、発芽率が劣りやすいため、キヒゲン等の種子粉衣を必ず行う。
- ③播種後降雨の恐れがある場合は、覆土は2cm程度に浅くし、播種後の鎮圧は行わない。また降雨後種子が水没しないよう、平播きにせず畦立てを行い、畦溝が排水路につながるよう明渠（作溝）を施工する。
- ④播種後、好天が続くと思われる時は、播種深度を深めの4-5cm程度にし、鎮圧を行う。
- ⑤播種期別の播種量は下記のとおりであるが、碎土率によっては発芽率が劣るので、播種量を多くする等の対策を講じる。

(播種期別、播種量の目安)

播種期 (月/日)	栽植本数 (m ² 当たり)	栽植本数 条間×株間×1株本数	播種量目安 (kg/10a)
7/26～7/30	27本	75cm×10cm×2本	8.0kg

(2) 中耕・培土

- ①中耕・培土には様々な効果があり、積極的に収量を上げるための重要な作業である。

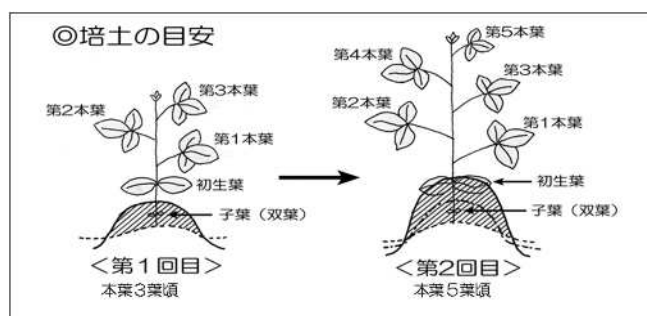
中耕・培土の主な効果

- 培土部分からの不定根の発生を促進し、養水分の吸収をよくする。
- 株元に土を寄せて、倒伏を防止する
- 土壤を膨軟にし、通気性を改善する
- 土壤を攪拌し、雑草の発生を抑える
(雑草を防除する)
- 畦が作られ、排水性が向上する
(表面排水を促進し湿害を受けにくくする)

- 1回目（本葉2～3葉期）…生育初期の雑草防除、土壤中への酸素供給。
- 2回目（本葉4～5葉期）…除草効果＋土壤通気性向上
＋新根発生促進　＋倒伏防止。

※ 培土は開花1週間前までに終了すること！

- ②開花後の中耕は断根による悪影響が大きくなるので開花前に終わる。
- ③乾燥が続く場合には乾燥を助長するため行わない。



令和6年産 作物作付期間気象図
アメダス観測値(白石)

